

東北地域と「一帯一路」建設との結びつきの現状と展望

黒龍江省社会科学院東北アジア研究所長、研究員 笄志剛

黒龍江省社会科学院大学院世界経済専攻修士課程 謝東丹

「一帯一路」イニシアチブが提起されてからすでに4年近くとなった。2017年5月14～15日、北京において『「一帯一路」国際協力サミットフォーラム』が盛大に行われ、このイニシアチブがすでに国際社会に広範囲に認識されている。二国間・多国間協力協定が締結されプロジェクト実施が始まっていることはもちろん、「一帯一路」がアジア・ヨーロッパ・アフリカの地域協力を推進する有効なプラットフォームになり、世界経済の持続可能な発展を促進する最も潜在力をもつ構想になったことを示した。「一帯一路」の国内外の地域配置において、中国東北地域は重要な地政学的かつ地理的な役割があり、2016年4月26日に公布された『中共中央国務院の東北地域等旧工業基地を全面的に振興することに関する若干の意見』では東北振興についての新しい条件を次のように明記している。「『一帯一路』建設戦略に主体的に合流し、積極的に参画する。戦略的な信頼関係、経済貿易協力、人文交流を共同で推進し、地方と周辺国のインフラの相互通行を強化し、東北地域を我が国の北へ向けた開放の重要な窓口と北東アジア地域協力のセンターハブとして作り上げる努力をする。……2020年までに、東北地域は重要な分野や鍵となる部分の改革で大きな成果を得て、経済発展方式の転換や構造的な改革を大きく進展させ、経済の中高速成長を保ち、全国と同じように全面的に小康社会を建設する目標を実現する。……この基礎のもと、10年前後の時間を使って、東北地域において全面的な振興を実現し、全国現代化建設の最前

線となり、全国の中でも経済の支えとなる重要な地帯となるように努力する²」。これは2013年に中国の国家指導者が「一帯一路」イニシアチブを提起して以来、東北地域が「一帯一路」建設と結びつく最も戦略的かつ政策支援的な記述であると同時に、東北地域が「一帯一路」イニシアチブに合流することにより、トップレベルの設計から建設計画に移行したことを示している。三省が「一帯一路」建設に結びつき、「一帯一路」地域の六大経済回廊の一つである「中国－モンゴル－ロシア経済回廊」建設に合流する戦略的な実施期に入った。

1. 「一帯一路」の提起と東北の全面的な振興

第1段階である2003年の東北振興戦略が、東北地域にさらなる対外開放と市場経済の模索という基礎を積み重ね、一時的な経済困難の現実的な条件を克服したことから話を始めれば、2013年に習近平国家主席が提起した「一帯一路」イニシアチブは、第2段階の東北振興戦略が稼働する下で、東北地域が改革を深化させ、困難な環境を抜け出し、開放を促進し、革新的な発展を遂げ、対外開放の新局面を構築するための重要な支えとなり、実施していくための有効な経路となるはずである。

(1) 「一帯一路」イニシアチブの提起と段階的な成果

①「一帯一路」の戦略目標と東北地域の位置

2013年9月、10月、習近平国家主席はカザフスタンとインドネシアでそれぞれ「陸上シルクロード経済帯」と「21世紀海上シルクロード」を提起した。その趣旨は古代の「シルクロード」の歴史的な符号にちなみ、平和的な発展の旗印を掲げ、主体的に沿線国家との経済協力パートナーシップを発展させ、政治的な互いの信頼関係を、経済的な融合、文化包括的な利益共同体、運命共同体、責任共同体を創造することであった。この「一帯一路」の三大共同体の国家目標と位置づけに照らし、このイニシアチブが提起された後、沿線の20余省のために、イニシアチブとの結びつき、あるいはその利用による新しい発展を追求する大きな契機が提供された。そのうち、新疆が核心区として位置づけられた。また甘粛、陝西、青海、寧夏が中央アジア、南アジア、西アジアの国家に向けた通路、商業貿易物流ハブ、重要産業・人文交流基地として位置づけられた。雲南は南アジア、東南アジアに向けた影響拡大センターとして位置づけられ、広西は「一帯一路」を有機的に結びつける重要な門戸として、福建は「21世紀海上シルクロード」核心区として位置づけられ、その他の沿海都市は「一帯一路」、特に「21世紀海上シルクロード」の「最前線兵」「主力軍」として位置づけられた。東北3省は北に向けた開放の重要な窓口、北東アジア地域協力の中心ハブとして位置づけられ、習

¹ 「一帯一路」とは「シルクロード経済帯」、「21世紀海上シルクロード」の略称である。2013年9月7日、習近平国家主席がカザフスタンで重要な講話を発表し、政策の交流、道路の相互通行、貿易の円滑化、貨幣の流通、民心の相互交流を強化し、「シルクロード経済帯」を共同で建設する戦略イニシアチブを初めて提起した。2013年10月3日、習近平主席はインドネシアでの重要な講話の際も、中国がASEAN諸国と相互に通行する建設を強化することに力を尽くし、ともに海洋協力パートナーシップを発展させることを望み、共同で「21世紀海上シルクロード」を建設することを明確に提起した。「一帯一路」は実体とメカニズムではなく、協力発展の理念とイニシアチブであり、中国と関係国との既存の二国間および多国間メカニズムに依拠して、既存の有効な地域協力を助けるプラットフォームであり、その目的は古代の「シルクロード」という歴史的な符号にちなんで、平和的な発展という旗印を掲げ、沿線国との経済協力パートナーシップを主体的に発展させ、政治的信頼関係があり、経済が融合し、文化包括的な利益共同体と運命共同体、責任共同体を共同で創造しようというものである。本稿では「一帯一路」と呼ぶ。

² 『「一帯一路」建設助力東北全面振興』中央政府門戸網、http://www.gov.cn/xinwen/2016-05/16/content_5073694.htm (2016年4月26日)

近平国家主席が2016年の两会（人民代表大会・政治協商会議）開催中に吉林省代表団と審議し、2016年5月に黒龍江を視察し、2017年の两会開催中に遼寧省代表団と審議したときに、東北三省が「一帯一路」イニシアチブや中モロ経済回廊建設に合流する具体的な条件に呼応すべきだと提起し、東北の国家トップレベルの設計と「一帯一路」における位置づけ、期待が日ごとに増していった。

②「一帯一路」の新しい構成員の増加と東北発展の促進

2013年に「一帯一路」イニシアチブが提起され、基本的な協力対象が決められてから3年半あまり、国際的な反響と協力範囲の拡大の声が高まるにつれて、中国が提唱する協力対象は沿線国家で構成される60余国から拡大し、開始時には含まれていなかったアメリカ・日本・韓国などの国も協力要請を発している。2017年1月17日、習近平国家主席はダボス世界経済フォーラム2017年大会において主旨演説を行い、「『一帯一路』イニシアチブは提起されて3年余り、すでに100以上の国家と国際組織が積極的に支持する反応をみせ、40余りの国家や国際組織が中国と協力協定を結び、『一帯一路』の『朋友圈』（友達の範囲）³は絶えず拡大中だ⁴」と指摘した。2016年末までに、中国はすでに70余りの国家・地域、国際組織と共同声明および二国間協定、協力協定または協力備忘録、了解備忘録、中長期発展計画や協力計画綱要などを取り交わしている。また、「『一帯一路』建設は異なる地域、異なる発展段階、異なる文明を越えた一つの開放的で包括的な協力プラットフォームであり、それぞれが共同で打ち出す世界の公共製品だ。ユーラシア大陸を重点として、すべての志と道を同じくする友人たちに向けて開放されており、排除しないし、いかなる相手とも対立しない」とも指摘した。さらに2017年5月、北京で開か

れた「『一帯一路』国際協力サミットフォーラム」でも上記のような表明をし、「一帯一路」の拡大基調を打ち出した。このサミットは沿線国家を引き付けただけでなく、アメリカ・日本・韓国などの国々も高官級代表が参加し、協力への望みを表した。日本と韓国は「一帯一路」協力への参加を希望しており、日本や韓国との協力の基礎があり、それが積み重ねられてきた東北地域にはさらに多くの開放の機会と協力プロジェクトをもたらした。

③「中モロ経済回廊」が東北振興を推進する有力な経路に

「一帯一路」に属する六大経済回廊の配置において、東北地域の対外開放と全面的な振興を深化させる重要なつかみ手として、中モロ経済回廊は東北が「一帯一路」イニシアチブと結びつく重要な支えである。2014年9月11日、習近平国家主席は中モロ3国の首脳会談で「中国側はシルクロード経済帯の共同建設を提唱し、ロシア側・モンゴル側の積極的な反応を得た。シルクロード経済帯とロシアのユーラシアランドブリッジ、モンゴルの草原の道イニシアチブとを結び付け、中モロ経済回廊を打ち出そう」と提起した。こうして、中モロ経済回廊は3カ国政府の協力レベルにおける三カ国戦略に合流し、中モロ経済貿易等の協力をけん引・推進する有力なつかみ手となった。2016年6月23日、中モロ3国首脳共同立ち会いの下、3国の政府部門がウズベキスタンの首都タジキスタンで「中モロ経済回廊建設規画綱要」に署名し、中モロ経済回廊建設は「一帯一路」建設の重要な成果となり、「一帯一路」六大回廊の中で初めて実施される多国間経済協力回廊となった。東北地域は地理的にロシアとモンゴルと接し、歴史的にロシアやモンゴルとの往来が比較的多いため、改革開放以来、経済貿易協力が年々蓄積されており、中モロ経済回廊建設と結びつけることは中央が東北地域の開

放や振興を一步進める条件となるだけでなく、ロシア・モンゴル・朝鮮に依拠して北東アジアに影響を及ぼす地理的な優位性を発揮して、「一帯一路」イニシアチブに合流する重要な経路となった。

(2)「一帯一路」の段階的な成果が東北の速やかな合流を推進

①「一帯一路」イニシアチブが得た顕著な段階的成果

「一帯一路」沿線の65の国はアジア・ヨーロッパ・アフリカにわたり、陸海合わせて距離は2万キロに及び、人口は44億人に達して世界の63%を、経済総量は21兆ドルで世界の29%を、貨物とサービスの輸出は世界の23.9%を占めている。ユーラシア鉄道網は8.1万キロで、潜在的な「スーパー大陸」であり、世界経済の局面への影響は計り知れない。3年余りで「一帯一路」は理念設計・全体的な枠組み・戦略的な計画から、実質的な建設の段階に入り、顕著な成果を挙げた。それは四つの面で体现されている。第一に、イニシアチブが広範囲な反応を得たことである。現在までに世界の100余りの国・国家組織が「一帯一路」に参加してきた。70カ国余りが2国間協力協定に署名し、30カ国余りと国際産業能力協力を進めた。中国企業の沿線国への投資は500億ドル以上に達し、関係する重要なプロジェクトは実際に着手され、各国の経済発展をもたらした。中国からの「一帯一路」イニシアチブは世界に利益をもたらしている。第二に、金融が先導して効果を得た。2014年11月の北京 APEC サミット後に相次いでアジアインフラ投資銀行とシルクロード基金の成立が宣言され、ロシア・イギリス・ドイツ・韓国などヨーロッパ・アジアの創立メンバー国から広範囲な反応があり、現在は関連する17の投資プロジェクトが徐々に展開されている。第三に、ビジョン計画がさらに国際化した。2015年3月、中国は正式に「シルクロード経済帯と

³ 東アジア・ASEAN 12カ国（中国・モンゴル・シンガポール・マレーシア・インドネシア・ミャンマー・タイ・ラオス・カンボジア・ベトナム・ブルネイ・フィリピン）、西アジア18カ国（イラン・イラク・トルコ・シリア・ヨルダン・レバノン・イスラエル・パレスチナ・サウジアラビア・イエメン・オマーン・アラブ首長国連邦・カタール・クウェート・バーレーン・キリシヤ・キプロス・エジプトのシナイ半島）南アジア8カ国（インド・パキスタン・バングラデシュ・アフガニスタン・スリランカ・モルジブ・ネパール・ブータン）、中央アジア5カ国（カザフスタン・ウズベキスタン・トルクメニスタン・タジキスタン・キルギスタン）、独立国家共同体7カ国（ロシア・ウクライナ・ベラルーシ・グルジア・アゼルバイジャン・アルメニア・モルドバ）、中東欧16カ国（ポーランド・リトアニア・エストニア・ラトビア・チェコ・スロバキア・ハンガリー・スロベニア・グルジア・ボスニア・モンテネグロ・セルビア・アルバニア・ルーマニア・ブルガリア・マケドニア）

⁴ 魏建華「習近平：『一帯一路』的『朋友圈』正在不斷擴大」新華網、http://news.xinhuanet.com/world/2017-01/17/c_1120330914.htm（2017年1月17日）

21世紀海上シルクロードの共同建設を推進するビジョンと行動」を公布し、2016年6月、中国・モンゴル・ロシアは「中モロ経済回廊建設規画綱要」に署名して、2017年5月14日、習近平国家主席は「『一帯一路』建設は歴史に根ざしているが、未来に向かっている。中国に由来するが、世界に属する」と強調した。第四に、二国間・多国間協力がさらに深化した。2016年、「一帯一路」沿線国は連結協力、重大プロジェクト、産業能力協力、金融支援、民心の疎通、地方配置の六大協力を進めている⁵。合計で40以上の共同建設協定に署名し、20以上の国とシステム化した国際産業能力協力を展開し、中国・カザフスタンの「『シルクロード経済帯』建設と『光明の道』新経済政策連結協力規画」第一部の二国間戦略的連結協力規画、そして「中モロ経済回廊建設規画綱要」第一部の経済回廊協力規画綱要に調印した。さらに、中国・パキスタン経済回廊包括プロジェクト、インドネシアのジャカルターバンドン高速鉄道、中国—ラオス鉄道、グワダール港第1期建設工事、中国—パキスタン・カラコルムハイウェイ第2期改良工事、中ロ原油パイプライン複線工事、中ロ中央アジアの石油ガスパイプライン等、重要なプロジェクト建設がある。また、沿線国で鉄鉱・設備製造・自動車・電子等10以上の重点分野の56の国外協力区も設立された。アジアインフラ投資銀行、シルクロード基金が推進する金融支援も絶えず進められ、人民元越境取引の規模も拡大している。将来の5年間で、中国は8兆ドルを超える商品を輸入し、対外直接投資は7500億ドルを超え、出国する観光客も延べ5億人を超える見込みだ。そのうち、「一帯一路」の沿線国・地域からは2兆ドルの商品を輸入し、30以上の国と経済貿易協力協定を結び、沿線国と100件の貿易投資促進プロジェクトを実施する予定である。これらは世界各国に巨大なビジネスチャンスをもたらす、世界経済の速やかな回復に有利となるだろう⁶。

(2) 「『一帯一路』国際協力サミットフォーラム」が風向計に

2017年5月14～15日、中国は北京で「『一帯一路』国際協力サミットフォーラム」を盛大に開催し、29名の国家元首・指導者、国連等3名の重要国際組織責任者、50名の国際組織責任者、100名以上の大員・副大臣級高官、130カ国以上の850名の代表を含む1500名以上が国内外の来賓としてフォーラムに参加した。フォーラムの前夜およびその期間中、参加各国の中央政府、地方政府、企業等が一連の協力の共通認識や重要な施策、実務成果で合意を形成した。これらの成果は政策の意思疎通、インフラの連結、貿易の円滑化、資金の融通、民心相互のつながりの5分野、76大項目、270件以上の具体的な成果があった。これまでの4年間の「一帯一路」建設の積極的な進展を全面的に総括し、協力の共通認識を集約し、次の段階の重要な協力施策について共同で協議し、各方面の発展戦略の結びつきを推進し、パートナーシップを深め、連動して発展する戦略的なアピールを実現した。フォーラムの開催を通じ、世界経済の成長を促進し、地域協力を深化するために確固とした発展の基礎づくりを実現し、より便利な連結条件や、各国・各国人民の経済共同体により幸福をもたらす論拠を作り出した。

(3) 東北地域と「一帯一路」建設との結びつきが加速する形勢

「一帯一路」イニシアチブがけん引する中で、中国の31の省・市・自治区はそれぞれの比較優位性を発揮して、「一帯一路」に関係する各種戦略や規画に組み入ろうと、主体的に参与・合流の歩みを進めている。2016年に東北地域と「一帯一路」との結びつきで得た多くの成果から、「一帯一路」協力で合流・深化することは東北振興の重要なつかみ手と有効な経路になった。東北地域は中国が北東アジア地域との協力を深化・結びつけるための前線および発展の高地であり、「一帯一路」が絶えず拡張し、広域化するための重要な窓口

である。ロシア・モンゴル・日本・韓国・朝鮮とつながるこの地域の陸と海の有利な条件は、東北地域東部の国境地帯を調整して対ロシア・モンゴル・朝鮮との協力を拡大し、北東アジアの海上輸送・複合一貫輸送の海上ルートを調整して対日本・韓国およびアジア太平洋との協力を拡大する有利な条件をもたらしている。「一帯一路」政策は、東北を北に向けて開放する重要な窓口で「中モロ経済回廊建設規画綱要」協力の特徴として位置づけ、「一帯一路」を利用して全面的な振興を深化させる現実的な基礎と優位性を東北に持たせようとしていることは間違いない。東北経済が継続的な下降や思いがけない発展のボトルネックに向き合うためには、東北の旧工業基地の振興、革新的な発展、内部の体制・メカニズムの改革と革新を必要とし、国や省レベルの戦略による効果的な政策支援と総合的な支えが必要である。「一帯一路」は東北の外へ向かう発展活力を生かし、東北の全面的な振興のための新しい戦略的な支えや政策支援、プロジェクトによる重点化、潜在力の発掘を再構築する上で重要な役割をもつ。「一帯一路」や中モロ経済回廊などの国家戦略と結びつけ、東北地方の優位性と潜在力を発掘し、市場化メカニズムが主導する改革を推進し、周辺に対する開放の構えを最適化すれば、東北地域の全面的振興のための「一帯一路」との結びつきや合流の構えが加速するであろう。

2. 東北地域における「一帯一路」建設推進により実現した顕著な成果

東北地域の「一帯一路」建設との連結、中モロ経済回廊建設への合流は、体制メカニズムの改革が必要な「新東北現象」の衝撃に東北経済が向き合い、経済が継続して下降し、全国における順位や地位が低下する背景の下で段階的に展開されてきたものである。国や地域・省レベルによる多くの戦略的な支え、政策、資金、プロジェクト支援が必要だけでなく、内

⁵ 「2016年『一帯一路』取得六方面成果産能合作有序推進」中国網財経、<http://finance.china.com.cn/news/20170112/4066544.shtml> (2017年1月12日)

⁶ 王莉莉「『一帯一路』峰会一牽動世界脈絡、架設希望之橋」『中国対外経貿』、2017年第6号、pp.30-32

生的な発展の動力を活性化させ、体制メカニズム革新の推進や市場化改革の新しい道を模索する必要がある。国の「一带一路」に関するプラスとなる振興戦略の支援のもと、2016年の東北地域と「一带一路」協力の結びつきは顕著な進展を得て、三省それぞれの協力における優位性や特色が明確となった。全国の発展地域と比べると差は少なくないが、ビジネスの雰囲気はすでに形成されており、連結の基礎も絶えず固められ、推進潜在力が絶えず放出されている。

(1) 国・省レベルの戦略による東北と「一带一路」の連結促進

① 国のイニシアチブと戦略支援により深まる東北の「一带一路」との連結

国による戦略措置と東北地域および三省の独立した規画体系が「一带一路」イニシアチブと結びつき、中モロ経済回廊建設に合流する支えの役割がますます明確となり、強化する役割が絶えず現れている。国のイニシアチブや戦略からみると、2013年に提起された「一带一路」、2015年に公布された「『一带一路』のビジョンと行動」、2014年に成立したシルクロード基金とアジアインフラ投資銀行、2014年のAPECサミットにおけるアジア太平洋自由貿易区概念の提起などは、東北地域を戦略的な視野に入れ、国家戦略と地域配置で東北振興をけん引する上で必要な奨励・支援を与えるものであった。「黒龍江と内モンゴル東北部の国境開発開放規画」(2014年)、「東北振興十三五(第13次五カ年)規画」(2016)、「國務院の一連の新東北振興戦略を推進し東北地域の経済安定・向上を加速・推進する若干の重要な措置に関する意見」(2016)、「中共中央國務院の東北地域等旧工業基地を全面的に振興することに関する若干の意見」(2016)等の戦略あるいは規画は、東北の発展を直接目指し、東北振興を計画したもので、「中共中央國務院の東北地域等旧工業基地を全面的に振興することに関する若干の意見」ではさらに直接的に東北の「一带一路」イニシアチブにおける位置づけ・目標・要求を明確にした。「東北は『一带一路』建設の戦略に主体的に合流し、積極的に参与し、東北地

域を我が国における北に向けた開放の重要な窓口とし、北東アジア地域協力の中心ハブとなるよう努力しなければならない」という中長期目標を提起し、2020年までに重要な分野や鍵となる部分における改革で東北地域が大きな成果をあげ、この基礎の上にさらに10年前後の時間を使って全面的な振興を実現することを提起している。

② 地域戦略の「一带一路」への合流促進による東北の一体化発展

国の地域戦略と配置の面から見ると、東北経済区は中国の地域戦略の調整と配置の上で重要な地域であるだけでなく、中国が北東アジア地域協力・交流を推進する重要な構成部分でもある。地域戦略の公布の面から見ると、「一带一路」の六大経済回廊の一つである中モロ経済回廊建設およびその「中モロ経済回廊建設規画綱要」(2016)、「哈長(ハルビン・長春)都市群發展規画」(2016)、「東北振興三年滾動(回転)实施方案」(2016)、「地域發展戦略を徹底し地域協調發展を促進することに関する指導意見」(2016)等の地域戦略は、東北地域が「一带一路」イニシアチブに合流して、中モロ経済回廊に結びつくために、地域協調・資源共有・利益分配などの政策メカニズムを提供しただけでなく、多様な地域が地域發展の一体化を追求するために将来を展望する思考を提供した。

③ 省レベルの戦略による東北三省の「一带一路」への合流の新しい優位性発掘

東北地域がそれぞれの特色を発揮し、協力の優位性を確立する必要性に応じるため、国家戦略と地域戦略の共同メカニズムの下、東北三省は国家戦略が付与した省レベルの位置づけを利用し、「一带一路」の新しい優位性との結びつきを絶えず発掘しつづけなければならない。黒龍江省についていえば、2015年の「五大規画」に依拠した「龍江シルクロード帯」の提起に続き、2016年に国が集中的に公布した黒龍江省に関連する「哈長都市群發展規画」、ハルビン新区、ハルビン総合保税区の検査通過、綏芬河・東寧国家重点開発開放試験区等の政策の利点を最大限

に利用し、貿易、通商ルート、電子商取引、越境協力等「一带一路」に合流する省内の優位性と特徴を発掘する。吉林省についていえば、長吉図開発開放先導区ですでに存在する地理的・協力優位性を拡大すると同時に、「哈長都市群發展規画」や琿春国境地域開発開放試験区等の戦略や政策メカニズムに依拠して、北東アジアに向かう海への出口、中朝間の自由貿易協力の新しい道を模索する。遼寧省についていえば、「五点一線」と大瀋陽経済圏を強固にすると同時に、2016年の中独設備園や遼寧自由貿易区承認の二つの利点を利用して、陸と海を結び付ける「一带一路」の新協力モデルを模索する。以上の三省の省レベルの戦略におけるそれぞれの模索は、東北地域に「一带一路」と結びつく支えを初歩的に形成し、「一带一路」と「中モロ経済回廊建設規画綱要」を主旋律として、東北の国・地域・省レベルの数多くの戦略がロシアのユーラシア経済同盟やモンゴル国の「草原の道」などと結びつく協力を進め、「一带一路」の西に向けた越境輸送を代表とする陸路協力を深め、東に向けた北東アジア相互通行協力と結びつく陸海連結による優位性を確立するものである。

(2) 「一带一路」イニシアチブとリンクする東北地域の貿易の現状

① 「一带一路」建設と結びつく七大地域の貿易の現状

2016年、世界市場の需要がまだ弱く、国内のコストが絶えず上昇し、様々な不確定な要素がある中で、中国の対外貿易は輸出入総額3.7兆ドル、前年比6.8%減となった。その内、輸出は2.1兆ドルで7.7%減、輸入は1.6兆ドルで5.5%減であった。貿易黒字は5107.3億ドルで13.9%減だったが、これは2015年の大幅下落情勢を巻き返すものであった。2016年の中国の「一带一路」諸国との貿易総額は9539.9億ドルで、その内、ロシア、バングラデシュ、インドの「一带一路」の沿線国への輸出は比較的速い成長を実現し、それぞれ14.2%、9.3%、6.6%の伸びとなった。EUとアメリカへの輸出はそれぞれ1.3%、0.1%の伸びで、ASEANへの輸出は1.9%減少した。この三者への輸出合計は中国輸出総額

の46.7%を占めた⁷。

2016年の中国の主要な地域⁸と「一帯一路」沿線国の貿易額から見ると、華東地域が最も多く3616.2億ドルで37.9%を占め、華南地域は2842.8億ドルで29.8%、華北地域は1408.4億ドルで14.8%、華東・華南・華北地域の合計は82.5%を占め、中国と「一帯一路」の沿線国との貿易協力の最も重要な地域である。中部地域、西南地域、東北地域、西北地域の貿易額は小さく、それぞれ600億ドル以下であった(図1参照)。省市の「一帯一路」沿線国との貿易額からみると、広東、江蘇、浙江、北京、上海と沿線国の貿易額が第5位までを占めている。

②「一帯一路」建設と結びつく東北地域の貿易現状

注目すべきは、2016年の貿易状況を反

映する『一帯一路貿易協力ビッグデータ報告2017』のいくつかの指標を比較すると、東北地域は比率の減少、順位の下落到に直面していることである。第一に、全体の順位が下がっており、遼寧、吉林、黒龍江省はそれぞれ9位、18位、24位となっており(表1参照)、近年高水準であった2014年との差が拡大している。第二に、中国全体に占める東北地域の比率が減少している。地域ごとの輸出入貿易額が中国全体に占める割合を比較すると、華東地域が2014年の34.1%から2016年の37.9%へ3.8ポイント上昇し、華南地域が25.7%から29.8%へ4.1ポイント上昇したのに比べ、華北地域は19.0%から14.8%へ大幅に下落し、西南地域は6.4%から4.8%へ、東北地域は6.1%から4.2%へ下落した。これは東北経済発展の力不足がもたらした2014年に始まる外国貿易・投資の

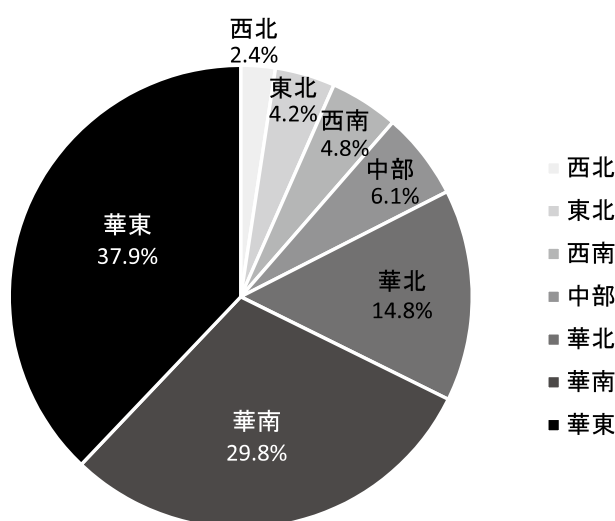
減少を反映し、全国の順位が下がった現実を表している(図2参照)。

③東北地域と「一帯一路」の国別貿易とその特徴

東北地域の「一帯一路」沿線の輸出相手国はおもにロシア、シンガポール、ベトナム、インドの北東アジア、東南アジア、南アジアの国々で、2016年の対シンガポール、ロシア、ベトナム、インドへの輸出額はそれぞれ30.6億ドル、26.6億ドル、26.1億ドル、17.7億ドルであった。その他の国は10億ドル以下であった。しかも、2016年の輸出統計をみると、パキスタンとタイが前年よりそれぞれ24.5%、4.6%増加しているのを除き、その他の国とは程度は異なるがみな減少している。その内、マレーシアとインドネシアの下落幅は40%以上、ロシア、パキスタン、シンガポール、イラン、ベトナムの下落幅は20%を越えており、外からの需要が依然として弱く、輸出が厳しい情勢にあって楽観できないことを表している。輸入の状況を見ると、東北地域の輸入相手国はロシア、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、スロバキア等、産油国を主とするヨーロッパ、アジアの国々であり、特に中東地域の国々であった。2016年、東北地域のロシア、サウジアラビア、スロバキア、アラブ首長国連邦からの輸入額はそれぞれ102.3億ドル、15.2億ドル、10.6億ドル、10.3億ドルであった。そのうちロシアの占める割合は45.4%に達し、東北地域の主要な輸入構造の中で、エネルギー型国家が重要な位置を占めている(図3参照)。とりわけ東北地域におけるロシアからのエネルギー輸入の割合は一貫して高く、黒龍江省漠河口岸では原油パイプラインを通してロシアの原油を2011年の開通以来毎年5000万トン以上を輸入している。

2016年の東北地域と「一帯一路」諸国との貿易製品からみると、輸出品はおもに金属・エネルギー・機械・船舶類であった。輸出額の上位10位の商品はおもに鋼鉄、鉱物燃料・鉱物油およびその蒸留製

図1 2016年中国7大地域の「一帯一路」沿線国との貿易額の比率



出所:『「一帯一路」貿易協力ビッグデータ報告2017』(2017年3月)、中国「一帯一路」網 (<https://www.yidaiyilu.gov.cn/>) より

表1 2016年の東北地域と「一帯一路」沿線国との貿易状況(単位:億ドル)

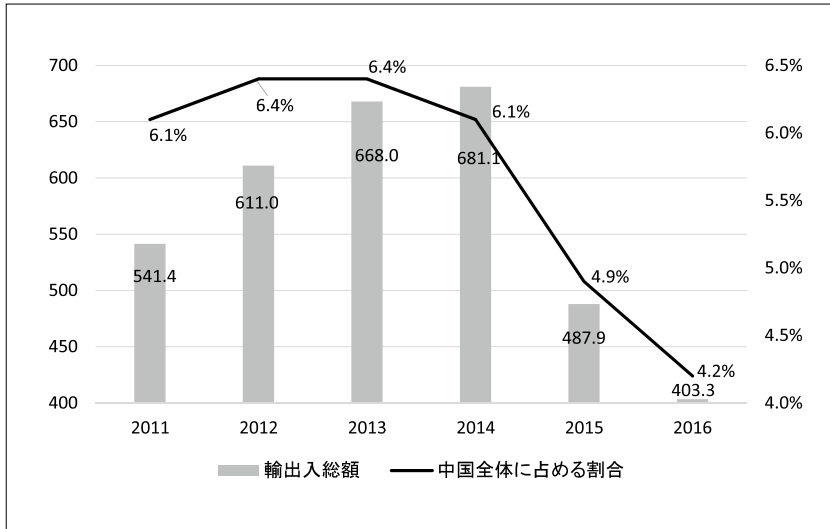
	輸出入		輸 出		輸 入	
	貿易額	順 位	貿易額	順 位	貿易額	順 位
黒龍江省	116.9	18	31.9	21	85	10
吉 林 省	46.3	24	14	27	32.4	17
遼 寧 省	240.1	9	132.2	11	107.9	9

出所:『「一帯一路」貿易協力ビッグデータ報告2017』(2017年3月)、中国「一帯一路」網 (<https://www.yidaiyilu.gov.cn/>) より

⁷ 「中国対外貿易形勢報告」商務部ホームページ、<http://zhs.mofcom.gov.cn/table2017/rep01.pdf> (2017年5月4日)

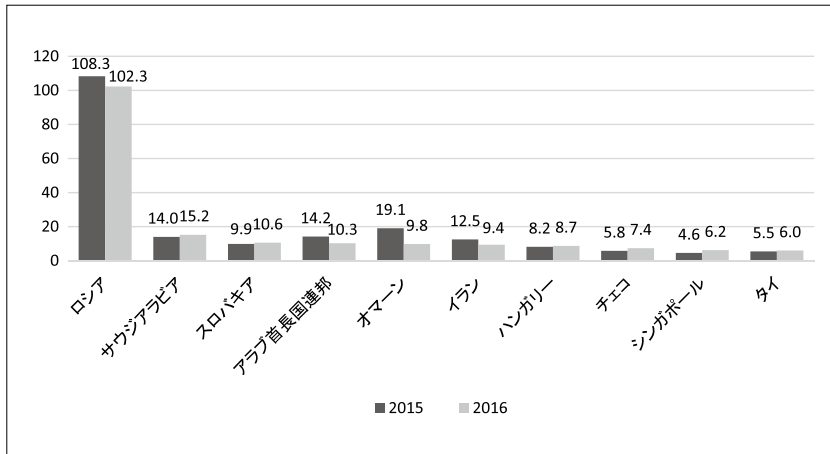
⁸ 中国「一帯一路」網『一帯一路貿易協力ビッグデータ報告2017』の伝統的な地域の区分方法によれば、国内の各自治区直轄市は東北・華北・華東・華南・中部・西南・西北の7地域に分けられる。東北地域は遼寧、吉林、黒龍江の3省、華北地域是北京・天津・河北・内モンゴルの4省・区・市、華東地域は上海・浙江・江蘇・山東の4省・市、華南地域は広東・広西・福建・海南の4省・区、中部地域は河南・湖北・湖南・江西・安徽・山西の6省、西南地域は重慶・四川・貴州・雲南・チベットの5省・区・市、西北地域は陝西・甘肅・青海・寧夏・新疆の5省・区を含む。

図2 2011-2016年の東北地域と「一帯一路」沿線国との貿易額(単位:億ドル)



出所:「『一帯一路』貿易協力ビッグデータ報告2017」(2017年3月)、中国「一帯一路」網 (<https://www.yidaiyilu.gov.cn/>)より

図3 2015-2016年の東北地域における主な輸入相手国(単位:億ドル)



出所:「『一帯一路』貿易協力ビッグデータ報告2017」(2017年3月)、中国「一帯一路」網 (<https://www.yidaiyilu.gov.cn/>)より

品、ボイラー・機器・機械器具・部品、アルミニウムおよびその製品、浮体構造物などであった。鉱物燃料・鉱物油およびその蒸留製品は輸入製品の中で多くを占め、その額は130.1億ドルで57.8%を占めた。次に車両およびその部品、原木および木製品、木炭、電気機械、電気設備およびその部品、ボイラー・機器・機械器具・部品などであり、20億ドル以下となっている(表2参照)。

(3) 東北三省と「一帯一路」との結びつきに現れるそれぞれの特徴

① 遼寧省の「一帯一路」協力との結びつきの現状および特徴

東北地域と「一帯一路」建設とが結びつく中で、遼寧省は「一帯一路」戦略が重点的に計画している18省区の一つであり、東北地域唯一の沿海・国境にある省で、地理的に明らかな比較優位性を有し、吉林省や黒龍江省に比べ協力基礎が相対的に深い。2016年の遼寧省の「一帯一

路」との協力をみると、貨物貿易、国外投資、物流ルート、国際生産能力協力、自由貿易区建設、外向型プラットフォーム構築の6分野に集中している。第一の貨物貿易では、「一帯一路」国との貿易の占める割合が大きい。2016年の対「一帯一路」国の輸出入は240.1億ドルであった。その内、輸出は132.5億ドルで全省の輸出総額の30.8%、輸入は106.9億ドルで全省の輸入総額の24.6%を占め、「一帯一路」協力が遼寧省の対外開放推進、貿易規模拡大を確かなものになっている。第二の国外投資では、「一帯一路」関係の投資が拡大傾向を続けている。承認された国外投資プロジェクトは合計54件、中国側の投資額は13.79億ドルで、全省の同時期の投資総額の34%を占めている。国家の「一帯一路」重点プロジェクトリストの対象となっている36カ国の中で、遼寧省が手配した投資プロジェクトは97件に達している⁹。第三の物流ルートでは、3大越境ルートが一定の規模を備えるようになった。「遼満欧」「遼海欧」「遼蒙欧」の3本の越境大ルートが遼寧と「一帯一路」沿線国を一つにつなぎ、陸上における北に向けた開放を形成し、中モロ経済回廊に全面的に合流し、海上では南に向けて開拓し、アジア太平洋海上物流ルートの新局面を推進することになった¹⁰。第四の国際生産能力協力では、初歩的な成果を得た。国際生産能力協力の重点プロジェクトには105件の「走出去(海外進出)」プロジェクトが立案され、遼寧沃夫石油裝備集団会社が9億ドルを投資してロシアの石油設備製造産業園区を建設するプロジェクト、阜新巴新鉄路集団が10億ドルを投資してモンゴルに鉄道を建設するプロジェクト、瀋陽連立銅業有限公司が8億ドルを投資してカザフスタンに銅製錬加工工場を建設するプロジェクト、瀋陽遠大集団が1億ドルを投資してパキスタンに蘇耐格風力発電所を建設するプロジェクトなど、いくつかの重要なプロジェクトが国家の「一帯一路」特定

⁹ (出所) 中国「一帯一路」網 (<https://www.yidaiyilu.gov.cn/>)、遼寧省地方誌網 (<http://www.lnsdfz.gov.cn/>) および関係ホームページ。

¹⁰ 「遼満欧」大ルートは2008年に開通し、大連、營口、瀋陽、盤錦から満洲里を経てロシア・欧州に達し、現在は毎週8列車の運行が通常化している。遼寧とモスクワ、ワルシャワ、ミンスク、カールガ、ノボシビルスクの各都市では二都市間列車輸送を実現している。「遼海欧」大ルートは2013年8月に開通し、大連港を起点として、ベーリング海峡から西に航行してノルウェーに達し、さらに欧州の各港湾に向かう。ユーラシア遠洋航路の距離は1.3万海里から8000海里に約35%短縮され、輸送コストも約30%低減した。すでに大連港からロッテルダム港の初航海を実現している。「遼蒙欧」は錦州港・盤錦港から珠恩嘎達布其口岸を経てモンゴルのチョイバルサンに至り、モンゴル東部から錦州・盤錦港までの最も速くて便利な海への鉄道ルートとなった。2017年5月10日、「遼蒙欧」の中欧列車が遼寧の盤錦港から初めて発車し、16日後にペラルーシの首都ミンスクに到達した。これにより遼寧省の「遼満欧」「遼蒙欧」「遼海欧」の3大ルートがすべて供用開始した。

表2 東北地域と「一帯一路」沿線国との輸出入額上位10位製品(単位:億ドル)

	輸出額上位10位製品	輸出額	前年比	比率	輸入額上位10位製品	輸入	前年比	比率
1	鉄鉱	22.7	-12.0%	12.7%	鉱物燃料・鉱物油および蒸留製品等	130.1	-21.0%	57.8%
2	鉱物燃料・鉱物油および蒸留製品等	19.6	-34.7%	11%	車両および部品	18.2	20.3%	8.1%
3	ボイラー・機器・機械器具および部品	19.1	-31.9%	10.7%	原木および木製品、木炭	13.3	21.9%	5.9%
4	アルミおよびアルミ製品	17.0	-29.5%	9.6%	電気機械・電気設備および部品	11.5	15.5%	5.1%
5	船舶および浮体構造物	15.0	4.8%	8.5%	ボイラー・機器・機械器具および部品	9.9	9.4%	4.4%
6	電気機械・電気設備およびその部品等	11.4	-20.5%	6.4%	魚・甲殻動物等水生無脊椎動物	7.3	31.9%	3.2%
7	有機化学品	6.1	-0.7%	3.4%	有機化学品	5.1	-13.2%	2.3%
8	車両およびその部品	5.4	0.9%	3.0%	光学・計量・検査・医療用器具および設備	3.4	18.1%	1.5%
9	メリヤス・かぎ針編み服飾および小物	4.6	-21.0%	2.6%	プラスチックおよび製品	2.9	-12.5%	1.3%
10	鉄鉱製品	4.5	-35.6%	2.5%	食用果物および堅果	2.8	-13.9%	1.2%

出所:「一帯一路」貿易協力ビッグデータ報告2017(2017年3月)、中国「一帯一路」網(<https://www.yidaiyilu.gov.cn/>)より

プロジェクト計画および国家中モロ経済回廊プロジェクト案に組みこまれている。第五の自由貿易区建設も進展している。2016年8月、遼寧自由貿易区が正式に設立され、遼寧省の地理的な位置、港湾、経済的基礎、人材支援等の優勢な条件を發揮して「一帯一路」戦略に組み入り、海上シルクロードの東側ハブおよび陸上シルクロードの東北地域における重要な結節点となり、北東アジアと東南アジアを結ぶ海上シルクロードの有機的連結性のある位置付けと地理的優位性の確立を促進した。第六の外向型プラットフォーム構築は、外に向けた産業協力を支援している。遼寧自由貿易試験区を指標として、瀋撫新区、金普新区、瀋陽全面イノベーション改革試験区、瀋大国家自主イノベーション示範区、大連中日韓循環型経済示範基地、大連越境電子ビジネス総合実験区、中独(瀋陽)ハイエンド設備製造産業園が対外開放戦略の受け皿として重要なプラットフォームとなった。

②吉林省の「一帯一路」協力との結びつきの現状および特徴

吉林省は、ロシア・朝鮮・モンゴルと接する地理的優位性を利用して、国家の「一帯一路」戦略に主体的に参入し、長吉図開発開放先導区の建設を速め、「一帯一路」建設と結びつく中で、同時に推進・発展する貿易、交通、港湾、投資、観光の五つの特徴を現している。第一の貿易は、「一帯一路」国に対する輸出入で良好な情勢を保っている。2016年の「一帯一路」国との輸出入額は46.3億ドルで、多くの国への輸出が成長傾向を見せた。その内、タイ、ヨルダン、トルコ、ウクライナへの輸出がそれぞれ134.6%、56.2%、41.7%、35.4%伸長した。第二の交通については、「借港出海(港を借りて海にでる)」ルートの建設が進展をみせている。「借港出海」の戦略的な配置をさらに実現化し、琿春—ザルビノー釜山航路の運航を安定化させた。2015年8月31日には「長満欧」国際列車が正式に開通し、現在ヨーロッパ6カ国18カ所の鉄道駅、ロシアの50カ所の鉄道駅につながっている。長吉図開発開放先導区を横断し、一日平均旅客数6万人

以上を輸送する長春から琿春までの高速鉄道は2015年に開通し、将来的には濱海2号(プリモーリエ2)ルートを通じて琿春からロシア極東の鉄道終着駅ウラジオストクまでわずか180キロとなる。琿春を基点に、ロシア、韓国、ひいては日本まで延伸する陸海複合一貫輸送ルートを開通させることができる。第三の港湾では、通化港における正式な通関運営状況が良好となっている。2016年12月19日、通化港が開通運営を開始し、1日の取扱量が1万5000トン以上に達した。今後、通化国際内陸港務区の機能を整備すると同時に、丹東港や環渤海と結びつき、鉄道コンテナ駅、保税物流センター(B型)の重点プロジェクトを推進し、吉林省の南に向けた開発の新しいルート・新プラットフォーム・新窓口を形成する。第四の投資では、国外投資が爆発的な成長を見せている。吉林省は産業優位性に基づいて「一帯一路」国の投資市場を開拓し、鉱業、農業、木材付加価値加工、医薬研究開発など多方面の業種の投資協力を展開し、石油化学、電力、水利、道路建設など多くの分野で工事請負事業を実施している。2014年から現在ま

で「一帯一路」沿線国に新しく設置した国外企業数は123社で、中国側が合意した投資額は43.5億ドルとなった。第五の観光では、越境観光が多国間の人的交流を推進した。図們江デルタ国際観光協力区に象徴される「無国境」観光は、これから中国、ロシア、朝鮮に利益をもたらし、モンゴル、日本、韓国と連結して北東アジア観光の目的地および観光客の集散センターとなるであろう。

③黒龍江の「一帯一路」協力との結びつきの現状および特徴

黒龍江省は対口貿易・投資の大省という優位性に基づき、北東アジアその他の国々との協力の潜在力を発掘すると同時に、「一帯一路」国との多様な協力を積極的に拡大している。また、「一帯一路」沿線国との貿易、ルート、電子商取引・小包郵便、農業栽培が逆に成長する状況をみせている。第一に、「一帯一路」沿線国との貿易が成長している。近年、ロシア経済の低迷や外部環境の変化の影響を受けて、黒龍江省の対口貿易を中心とする輸出入は負の成長を見せているが、「一帯一路」国との貿易は逆に成長している。2015年、黒龍江省とロシア以外の「一帯一路」沿線58カ国との輸出入は40.9億ドルを実現し、輸出入総額の19.5%に達し、前年に比べ6.2ポイント上昇した。2016年には、黒龍江省と「一帯一路」国との輸出入は116.9億ドルを実現した。その内、輸出は31.9億ドル、輸入は80億ドルであった。第二に交通では、越境ルート輸送が噴出するように成長している。哈欧（ハルビン—欧州）列車、哈ロ（ハルビン—ロシア）列車は国内の同様の列車の中で最前線の位置にいる。ハルビンは北東アジアの中心地帯にあり、中国北方の対口・対欧貿易の重要な物流集散地・積替駅となっている。2015年6月13日に哈欧列車がハルビンから初運行し、6月26日にはドイツのハンブルグを出発し、黒龍江省のユーラシア越境輸送の幕が開いた。2016年2月27日には、「哈欧列車」の成功運行後に増便された哈ロ国際貨物列車も試運転を開始し、ハルビンを始発に満洲里口岸、ロシアのノボシビルスク、ペルミを経由し、終点のエカテリンブルグに到着した。全日程12日間、

総距離5889キロであった。また、「ハルビン—綏芬河—ウラジオストク—釜山」の陸海複合一貫輸送が正式に開通し、2016年4月12日に中国・ロシア・韓国を結ぶ運行の常態化を実現し、「一帯一路」イニシアチブの下で、東北地域の経済発展を強化し、周辺国との経済協力を拡大するための重要なルートかつ東北地域の新しい海への出口となった。同江の中口河川越境鉄道大橋が接合するの間もなくである。2014年2月に着工し、2017年7月10日までに中国側の主体工事は終了段階に入った。ロシア側の橋梁部分は2016年6月に着工され、2018年6月に大橋は接合され、列車が通過する予定である。黒龍江省はロシアとの旅客・貨物線が最も多い省でもある。2016年4月17日、ロシアのウラル航空がハルビンからエカテリンブルク経由サントペテルブルク線を開通し、ハルビン空港12番目のロシア線となり、その数は北京に次いでいる。第三の越境電子商取引・小包郵便は飛躍的な発展を遂げている。2013年11月のハルビンからエカテリンブルクの貨物輸送チャーター便は、国内初の対口電子商取引・貨物輸送チャーター便の誕生を告げるものであった。2017年4月末までに、このチャーター便は延べ342回飛行し、搭載貨物は7185トン、輸出貿易額は7億ドル近くを実現し、国内の対口航空小型郵便の主要ルートとなり、貨物輸送量は全国の30%を占めている。第四の国外農業栽培は成長を続けている。2016年、黒龍江省は外向型農業を強力に推進し、全省の対口国外開発面積を40万ムー増やし、累計850万ムーに達し、前年比4.9%の伸びとなった。2016年の全省の対口国外穀物栽培による穀物の逆輸入は44.5万トンで前年比3.9倍となり、対口農業協力は順調に進展している。

3. 東北地域と「一帯一路」協力との結びつきについての展望

将来を展望すれば、「一帯一路」イニシアチブが絶えず深まり、今後も比較的長期にわたる国家推進戦略になるにつれて、東北が成長を回復し、全面的な振興するのに有利な多くの好材料を放ちつつけるであろう。「一帯一路」国際協力サミット

フォーラム」の継続開催が期待され、米・日・韓の「一帯一路」協力への参加姿勢が東北振興を盛り上げ、中口協力が「一帯一路」のモデル的効果を推進することがますます明確になってくるであろう。同時に、2017年になって経済の安定回復と外国貿易投資分野の成長回復が現れるにつれて、東北三省と「一帯一路」との各種協力も積極的な方向に向かっており、今後のためにより堅実な基礎を固めている。

(1) 「一帯一路」イニシアチブによる東北発展の好材料の放出が継続

①「『一帯一路』国際協力サミットフォーラム」の継続開催

2017年5月14-15日に初の「『一帯一路』国際協力サミットフォーラム」が盛大に行われた後、習近平国家主席は2019年に第2回「『一帯一路』国際協力サミットフォーラム」を継続開催することを厳然と約束した。第1回フォーラムが「一帯一路」協力の新しい章を開いたとすれば、続く西安あるいは泉州で開催されるサミットフォーラムは、資源の集中、産業連結、政府協力、プロジェクトけん引、人文交流の角度から「一帯一路」沿線の二国間・多国間協力のために多様なプラットフォームを提供し、「一帯一路」とロシアのユーラシア経済同盟、モンゴルの発展の道戦略、カザフスタンの光明の道戦略とが結びつき、中国、モンゴル、ロシア、カザフスタンの指導者間の戦略合意だけでなく、多くの戦略の持続的な結びつきと着実な発展のため、将来のフォーラムがより多くのより良い解決策を提供し、より多くの第三国に利益をもたらす多国間協力ビジネスチャンスを提供するであろう。

②米・日・韓の「一帯一路」協力への参与が東北振興を後押し

東北地域についていえば、アメリカ、日本、韓国は地理的・外交的な対象であり、伝統的な貿易投資協力のパートナーであり、複雑な北東アジアの地理的局面的変化の中で、米・日・韓の「一帯一路」イニシアチブへの対応は東北地域の貿易規模を拡大し、投資の質を向上させ、開放の局面を最適化するのに非常に重要な役割を持つ。2017年に入り、とりわけ5月に北

京で開かれた『「一帯一路」国際協力サミットフォーラム』を焦点に、米・日・韓はそれぞれ政府・党・議員などを派遣・参加し、「一帯一路」協力に参与する希望を表明した。日韓両国の指導者は、「一帯一路」が世界経済の成長を促進する戦略的な構想であり、東北地域の既存の協力基礎を利用し、地理的な優位性を拡大し、「一帯一路」協力を深める新しい契機をもたらし、東北振興・発展を向上させるのに直接的な助けとなるだろうと公に肯定した¹¹。

③中口協力による「一帯一路」の模範効果が日増しに明確化

2016年9月の杭州 G20サミットにおける中口首脳会談に続き、中口両指導者は2016年11月にリマで開催された APEC サミット、2017年7月の G20サミットで会談を実現し、国際活動参加中に二国間会談を行い、毎年何回かは会合を持つことが中口指導者の慣例となった。今回の習近平国家主席の訪問は中口間の戦略連結を拡大し、経済貿易協力の水準を向上させ、中口地域協力和二大戦略が絶えず融合することにより、ユーラシア自由貿易区とアジア太平洋自由貿易区の実現を促進し、政治的信頼・外交が推進される下で中口協力が再び指導者に重視される新しい契機となるであろう。現在、中口による同江鉄道大橋が完成間近で、黒河道路大橋建設も着工し、黒瞎子島口岸プロジェクトの立ち上げも承認され、哈口・哈欧列車、哈口亜列車等の輸送は常態化・大規模化が進んでおり、中口間は極東開発と東北全面振興の戦略連結、プロジェクトの結合、資源協力をめぐる歩みを速めている。中口の「一帯一路」および「ユーラシア経済連合」の二大戦略の連携がもたらす多くの着実な協力は、協力の模範的效果をますます高めるだろう。

(2) 東北地域の対外開放新局面の発展がもたらす新しいチャンス

①遼寧省と「一帯一路」協力との結びつきがもたらす新局面

2017年に入り、遼寧省と「一帯一路」との協力が貿易、とりわけ医薬分野の貿易

協力企業で新しい局面を迎えた。2017年1月から3月にかけて、遼寧省の輸出額は3カ月連続でプラス成長を実現し、2014年8月以来29カ月に及ぶマイナス成長の趨勢を転換した。協力地域からみると、「一帯一路」沿線国への輸出は成長を続け、アメリカ、EU への輸出も全面的に上昇を回復した。その内、「一帯一路」沿線国への輸出は130.2億元で前年同期比18.7%増となり、全省の輸出総額の17.4%を占めた。輸出製品の構造からみると、機械・電気製品と労働集約型製品の輸出が対外貿易成長をけん引する役割がさらに強くなった。2017年1月から3月まで、「一帯一路」、遼寧自由貿易区の国家戦略・政策がけん引する下で、遼寧省医薬業界の輸出・引き渡しは強い上昇傾向を示し、前年同期比19.3%の伸びであった。その内、化学原料薬が同43.8%増、バイオ医薬品が同272.1%増であった。その中で、「一帯一路」沿線国への医療器械輸出は成長変化が見られ、同8.2%増であった。

②吉林省と「一帯一路」協力との結びつきに現れる新状況

2017年に入り、吉林省と「一帯一路」との協力は輸出加工区、科学技術園区の建設、国際生産能力協力などの面で新しい状況が現れた。第一に、琿春輸出加工区のけん引作用が向上した。「一帯一路」協力の東方への移行につれて、琿春輸出加工区は図們江地域経済協力に基づき、「一帯一路」の枠組みの下で多様な協同に積極的に参与し、優位性のある主導的産業を育成し、琿春国際協力示範区の外向型経済の先駆けとなった。2017年5月末までに、琿春輸出加工区は貨物輸出入量19万トン達成し、輸出入額は2.4億ドルとなった。第二に、「中国・ベラルーシ科学技術園」建設の基礎が確立した。2017年が中国とベラルーシの国交樹立25周年、長春市とミンスク市の友好関係締結25周年という節目にちなんで、6月に「中国・ベラルーシ科技园」が長春市に作られた。この園区は長春新区の中心地帯に位置し、総投資額は3億元、中国とベラルーシの科学研究交流やハイテク研究

開発の重要な基地であり、将来は科学技術分野のサービス・実業・金融の三つが一体となった国際協力プラットフォームとなる。第三に、国際生産能力協力委員会、省政府協同メカニズムの確立がある。2017年3月2日、国家発展改革委員会の徐紹史主任と蔣超良吉林省長の間で協力協定が結ばれ、国際生産能力・設備製造協力委員会、省政府協同メカニズムの推進が確立した。吉林省の自動車、軌道交通、鋼鉄、有色金属、電力、化学工業、セメント、農林畜産業など重要な分野で、アジア周辺国、アフリカ、中東、ヨーロッパなどの重点地域に向けた「走出去」協力を推進する。

③黒龍江省と「一帯一路」協力との結びつきが踏み出す新しい歩み

2017年に入り、黒龍江省と「一帯一路」との協力は前年の積極的な情勢を継続し、貿易・越境輸送・関税申告の面で、具体的に次のような数値とプロジェクト協力で現れた。第一に、哈欧列車の輸送量と金額が大幅増を続けた。2017年1月から6月にかけて、ハルビン内陸港口岸を経て運行された哈欧列車は全部で99列車となった。その内、出国した49列車のコンテナは5754TEU、1億7043万ドルであった。入国した50列車のコンテナは5764TEU、1億47万ドルであった。2017年6月30日には、123台のボルボ S90を積んだ初の自動車輸送列車がベルギーのゼーブルージュ港に到着した。前年同期に比べ、出国したコンテナ数、金額はそれぞれ629%、391%の伸びとなっている。また、入国したコンテナ数と金額ベースもそれぞれ1000%、35.7%増となった。2017年4月までに、ハルビン―綏芬河―ウラジオストク―釜山の陸海一貫輸送ルートで合計53列車を運行し、5634TEU、5.07億元、8.45万トンに達し、貨物は中国南方港湾、日本の東京・大阪、台湾などの地に輸送された。2017年4月11日には、黒龍江省陸海連運通道国際物流有限公司がロシア・ポストチヌイ港から中国・太倉港までのコンテナ航路を開通させた。これはポストチヌイ港で初めて中国企業が開通した航路で、黒龍江省の

¹¹ 「対接「一帯一路」建設・推動龍江全面振興發展高層國際論壇文集」黒龍江省社会科学院北東アジア研究所、2017年6月15日

企業が極東港湾から中国南方港湾に直行する「借港出海（港を借りて海に出る）」を実現した。ハルビン—ロシア間の道路の役割も日増しに明確になっている。2016年7月から、ハルビンからモスクワまでの哈口国際道路輸送が開通し、2017年5月末までに運行されたのは延べ1336便で、輸出額は4.4億ドルに達した。第二に、ハルビン総合保税區が正式に国家の検査を通過した¹²。2017年3月のハルビン総合保税區の国家による検査通過は、この保税區を省内の開放レベルで最高に、優遇政策で最多に、機能かもつとも揃った、通関かもつとも便利な特殊開放地域にした。現在までに東浩蘭生国際、優傳国際など40件の

プロジェクトが締結され入り始めている。第三に、第4回中口博覽会で大きな經濟貿易の成果を得た。2017年6月15日から19日までハルビンで開催された第4回中口博覽会および第28回ハルビン国際經濟貿易商談会は、74カ国・地域の1770社の企業が出展し、登録した専門業者は1万3000社に達し、その内「一帯一路」沿線35カ国も参加し、エカテリンプルク、ウラジオストクなどは「一帯一路」戦略における重要なハブ都市になった。第四に、対口電子商取引と貨物輸送チャーター航空機が飛躍的な成長を続けている。2017年1月から4月、ハルビンから出発したチャーター機は63便で前年同期比163%増、貨物輸送量は1324

トンで前年同期比175%増であった。輸出は金額ベースで1.26億ドル、前年同期比163%増であった。第五に、中口越境電子ビジネスのオンライン決済プラットフォームにおける金融支援の役割が明確になった。ハルビン銀行とロシアの120行以上の銀行が業務提携し、初めて中口越境金融サービスセンターが成立し、「対口越境人民元決算、全国ルーブル現金取引、対口オフショア金融、電子ビジネス総合金融サービス」という4大主要プラットフォームにより、ハルビンは全国のルーブル集散センターとなるとともに、国家に承認された越境貿易電子ビジネスサービス試験都市となった。

[中国語原稿を ERINA にて翻訳]

¹² (出所) 楊同玉「哈爾濱:対俄合作中心城市建設加快」中国經濟時報、http://www.sohu.com/a/150323828_115495 (2017年6月20日)